

11/28 朝日

コロナ重症 半月で2倍

受け入れベッド逼迫

新型コロナウイルス感染症の重症者の入院ベッドが、東京都や大阪府などで逼迫し始めた。厚生労働省の集計では、新型コロナの重症者は26日時点で435人。半月で約2倍となった。感染拡大地域の医療現場は、新型コロナ以外の重症者の診療を制限しなければ対応できない深刻な状況に追い込まれつつある。▼2面=迫る限界、12面=社説

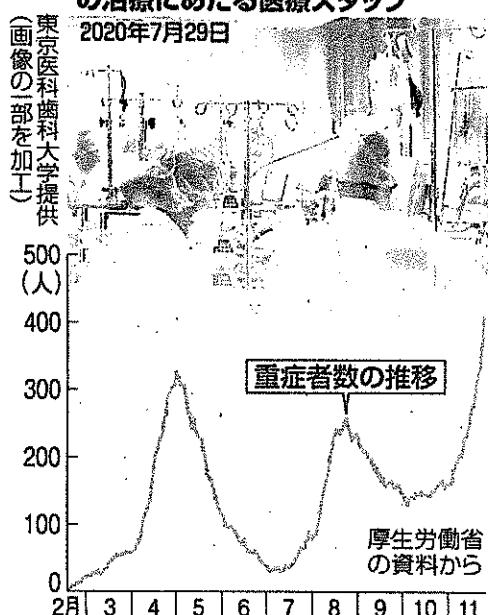
朝日新聞の取材では、重症者用ベッドの重症者の使用率(26日時点)は大阪府で52%、東京都で40%、神奈川

県で32%、愛知県で31%、兵庫県で29%だった。確保したベッドの使用率は政府の分科会が示した感染状況を判断する指標の一つ。「25%以上」がステージ3(感染急増段階)の目安になる。実態は数字以上に深刻だ。東京都は人工呼吸器か体外式膜型人工肺(ECMO)を装着した患者を重症者と定義し、26日現在で60人。重症者用の確保ベッドは「150床」とする。しかし、「確保」は必ずしも今使えることを意味していない。人手不足などですぐに

使えないものが含まれるという。都で入院ベッドの調整に携わる山口芳裕・杏林大病院高度救命救急センター長は「実際に使えるのは半分ぐらい」と指摘する。

通常の医療を削れば経営的にも大打撃となり、多くの病院は院内感染のリスクから、新型コロナ患者の受け入れには依然、消極的

新型コロナウイルス感染症の重症者の治療にあたる医療スタッフ
2020年7月29日



ルスの拡散を促す要因による。事業の継続と「不要不急の外出を控えて」の呼びかけには矛盾がある。

数週間は個々人の行動を見直す時期したい。「3波」が鮮明になった今、感染拡大地域ではGO TO事業を一時停止するという明確なメッセージが人の移動を止め、意識の変化を促す。政府や自治体は迅速に判断してほしい。

この1週間で全国で新たに1万4千人以上の陽性者が、120人以上の死者が確認された。このベースが続けば、医療機関のベッドが埋まり、新型コロナだけでなく、急病や大けがなどの救急患者も入院できない恐れがある。この事態から

での見直しを提言した。だ

ル」が象徴的だ。政府の分科会は20日、感染拡大地域

を下火にせねば救える命が救えなくなる恐れがある。が対象はどうで、誰が決められるのか。国と自治体が押し付け合ひ、東京都では從来のままだ。人の移動はウイ

ーク」は必ずしも今使えないことを意味している。人手不足などですぐに春の「1波」のピーク時の1

(編集委員・辻外記)

視点

命救う決断今こそ

新型コロナ流行は危険な水域に達しつつある。重症者は26日時点で、

・3倍超。一刻も早く感染を下火にせねば救える命が救えなくなる恐れがある。

「勝負の3週間」とも言われる。だが、その深刻さ

のままだ。人の移動はウイ